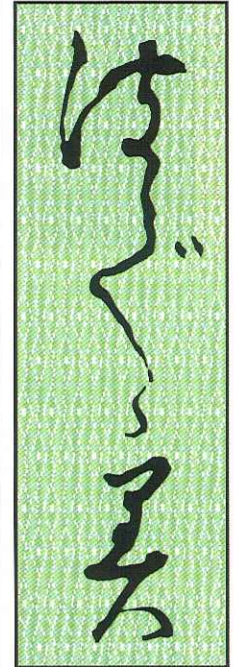


大分県PTA



発行所 大分市下都496-38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 (097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江町1丁目432番25 いづみ印刷株式会社



http://www.oita-pta.com/

初出品で初受賞

県知事賞に「南風」

日田市立 南部中学校教育友会

第36回 大分県PTA広報紙コンクール 2012



県知事賞受賞の南部中代表の皆さん

大分県PTA広報紙コンクール

表彰式では来賓・受賞校の代表者が出席する中、富永大輔県PTA連合会長が「広報部の活動は大変な面も多いと思う。しかし、広報紙は形に残り、活動している様子も子どもたちに伝わりやすい。また、学校の記録を残すという大事な役割を担っている。やりがいのある役員であり、学校では花形である。広報活動を行うことによってPTA活動とは違うものかをアピールし、PTAの活性化につながるよう頑張ってほしい」とあいさつした。

第36回大分県PTA広報紙コンクールに、県内の小・中学校より144校の応募があり、4月3日の審査会で入賞48校が選ばれた。表彰式は、4月18日に県教育会館で行われ、受賞校の代表者など約90名が出席した。

スッキリ読みやすいレイアウトで 紙面の変化に心がけ

新聞づくりの基礎を学ぶ

続いて、野中信孝県教育長(代理)曾根崎靖典教育庁社会教育課(参事)が祝辞を述べた。

表彰の後、帆足三郎審査委員長が次のように講評した。今年より13点多い、144校もの応募があった。その中でも日田市の健闘が光り、県知事賞、県PTA連合会長賞など多数入賞している。

▼広報紙縮刷版を大いに活用し、他校の広報紙を見て参考にすることが大切。また、み



講評に聞き入る参加者

▼PTA本来の役割であるPTA活動に焦点を当てる。そういう意味で、学校行事である運動会・体育大会は記事を書く上で、紙面がイキイキと、地域とのふれあいや、地域の方を登場させるのにも良いこと。

▼見出しは9〜11字に収める。平仮名を入れると柔らかくなるので、1、2字は入れる。原稿をしっかりと読んで見出しをつける。

▼レイアウトは読みやすく、わかりやすく、スッキリが基本。見た目が良いと手に取りたくなる。

▼記事と写真の割合は6対4が理想である。トリミングなどで工夫をする。

Table with 2 columns: Name and Position. Includes 帆足 三郎 (委員長), 安部 崇夫, 勝尾 裕美, 岩尾 淳一, 富永 大輔.



審査方法・基準 5人の審査員が1人10点の持ち点で1次審査。集計をもとに審査員の協議による2次審査で各賞を決定する。

研心北 木々の赤い若芽に命の誕生を思い、透き通る様な若葉に漲る生長の力を覚える。

第36回 大分県PTA広報紙コンクール入賞校

- 県知事賞 「南風」 南部中 (日田市)
県PTA連合会長賞 「ふたば」 大在小 (大分市)
県議会議長賞 「さいき城南」 佐伯城南中 (佐伯市)
県教育長賞 「滝尾っ子」 滝尾小 (大分市)

- 優良賞 (順不同)
春木川小、青山中、浜脇中、杵築小、藤原小、金池小
西の台小、豊府小、桃園小、明野西小、明治北小、川添小
松岡小、植田小、大在西小、賀来小、新生支援、滝尾中
戸次中、城東中、植田中、大在東中、野津原中
由布川小、佐伯小、上堅田小、咸宜限小、日三

お知らせ ☆第36回大分県PTA広報紙コンクール 優秀広報紙縮刷版 1冊1,000円で縮刷版を販売します。

また、県教育長賞受賞の片山和美大分市立滝尾小学校広報副部長は「みんなの頑張りで得た賞なのでとても感激。学校での子どもたちの様子が見られたり、部員同士の絆が強くなり一致団結できた。苦労もあつたが、良いものが出来た感じが良かった」と活動の様子を語った。

式後、会場は喜びあふれる笑顔でいっぱいになった。 今年もまた、県教育長賞受賞の片山和美大分市立滝尾小学校広報副部長は「みんなの頑張りで得た賞なのでとても感激。学校での子どもたちの様子が見られたり、部員同士の絆が強くなり一致団結できた。苦労もあつたが、良いものが出来た感じが良かった」と活動の様子を語った。

学校と連携して 子どもたちの道徳性を育みましょう！

子どもたちの道徳性を育むためには、家庭や地域社会が学校と連携していくことが大切です。道徳教育は、児童生徒の日常生活すべての場面で行われるものであり、家庭、地域、学校がそれぞれの役割を果たし、一貫した方針のもとに進めなければならないからです。

学校と連携する具体的な取組には、次のようなことが考えられます。

- 学校からの通信等を必ず読みましょう。
通信等には、道徳の時間に行った授業の様子や、豊かな心を育む体験活動の様子などが記載されています。学校で行われている道徳教育のねらいや重点的取組を知ることが連携していく第一歩です。
 - 学校が特に力を入れている事柄を家庭でも取り組んでみましょう。
あいさつの励行、朝食をとる習慣づくり等の基本的な生活習慣を育むことは、子どもたちの道徳性を育む上でとても大切なことです。学校が特に力を入れて指導や呼びかけをしている事を家庭でも取り組んでいきましょう。
 - 道徳の授業を参観しましょう。
授業を参観する時は、「ねらい」や「どんな子ども（道徳性）を育てようとしているのか」等について考えてみるのが大切です。
また、参観した道徳の授業を話題にして家庭で話し合うのもよい方法です。
 - 道徳の授業に協力しましょう。
学校は、保護者や地域の方に道徳の授業のゲストティーチャーをお願いすることがあります。地域の人材として登場したり、郷土の先人たちの業績を伝えたりするゲストティーチャーになるなど、積極的に道徳の授業に協力しましょう。
- ※PTAの活動をとおして、育てたい道徳性について保護者から学校へ提案し、ともに取組を進めることも考えられます。

今必要な 道徳教育を考える

大分県道徳教育推進協議会が、2月4日（月）大分市立明野東小学校で行われた。県P連を代表して、委員である有松一郎、若林啓子両県P連副会長が出席。道徳の授業を参観した後、明野東小の道徳教育推進の方策について説明があり、続いてこれからの大分県の道徳教育の必要性や、取り組むべき方向性等を議論した。

各学校の取組

明野東小・明野西小・明野北小及び明野中学校の明野地区小中学校では、各学校での道徳教育の目標を掲げつつ、小中と9年間を通じた道徳教育を目指し連携を図っている。その重点目標としては「思いやりの心を持ち、自他の生命を尊重する態度を養う」な

推進の方策



明野東小の道徳の授業

協議では、特に、家庭・地域と学校が連携するためにど

どがあり、各学校において様々な取組を行っている。明野東小では、提案授業や講演会等を実施して道徳授業の向上を図ると共に、オープンスクールとして年6回の授業公開を、保護者や地域へ向けて行っている。

このような方策がよいのか話し合われた。
○学校がどのような道徳性を育てようとし、どのような取組を行うのか説明する場を充実させる。
○道徳の授業の公開は増えてきているが、何をねらいにしているのか等を参観者に伝わるように工夫する。
これらの課題を解決するため、まず第一にPTAとしては、学校の設定した機会に積極的に参加し、学校の取組やねらいを理解するよう努める。また、学校と家庭が連携して道徳教育をすすめるための工夫について、学校とPTA組織等で話し合い、できることから行っていく。家庭においては、学校と連携するため、左のような取組を参考に子どもたちの豊かな道徳性を育ててほしい。

シリーズ 今考える

子どものこころと命

— 大事な存在を傷つけないために —

体罰やいじめなど、子どもの心身に関わるニユースに出会うたび、心は重くなる。子どもを持つ親にとっては、他人事ではないだろう。当たり前だけれど、その子その子に一つ一つの大事な身体、大事な命。子どもたちは知っているか、私たちは気づいているか、本当にかけがえのないことに。

《考える時間を》

時計が、どんなに正確に時を刻んでも、それは僕らの恋唄じゃない。
傷つき、辛い思いをしている子どもがいるなら、この詩を贈る。辛い「思い出」になる前に捨ててしまえばいい。そしてずっとそばにいて、見守り続けることが、私たち大人の仕事であり、責任である。

ごらん。そして、相手の瞳の中に自分を探してごらん。その瞳に映った自分はどんな姿をしているのか。一人に一つのかげがえのない命を傷つけて、君は大人になれるのか、優しくなれるのか。
寺山修司氏の作品に「思い出の歴史」という詩がある。

《時計の針が前に進むと「時間」になります。後ろに進むと「思い出」になります。——中略——
思い出が憎らしかったら時計を捨てよう。川に捨てたら、見守っていきたい。

《今を生きる君へ》

相手の中に自分を写せず、認めることを知らなければ、その人の痛みを感じることはできない。集団という城壁に囲まれ、もろい盾を持ち、高い橋の上から、誰かに槍を向けている子どもがいるなら言いたい。「同じところへ降りて

《大切な存在》

子どもは、大人が思う以上に多くのことを感じながら生きています。自分分ってなんだろう、自分はこのにいていいのかわからない、大人は「産まなければよかった」など、存在自体を否定する言葉は使わない、「大事だよ、大好きだよ」と常に伝えていた。自分が大事に思われていると感じることができれば、自分の命がかけがえのないものだ



(写真と本文は関係ありません)

楽しい 子育てをしよう

我が家の新聞に掲載された西原恵子さんの「雑育のすすめ」が、いつの間にか「あれもあれも出来て欲しい」等と志が上がる一方だった。今私の目の前で笑ってくれる、ごはんを美味しいと食べてくれる、そんな子ども達を見ていただけで十分幸せではないか。
さあ私も西原流「雑育」で肩の力を抜いて、楽しい子育てに再挑戦しよう。
子どもが健康で笑ってくれば十分なのだから。

白杵市立福良ヶ丘小学校
PTA会長 野上 亜津子

『ボウ・ソウ』報告・連絡・相談で 風通しの良いPTA組織作りを目指して

竹田市PTA連合会

春高樓の花の宴という歌い出しの「荒城の月」を作曲した瀧藤太郎と「犬のおまわりさん」を作曲した佐藤義美で有名な竹田市PTA連合会です。

昨年7月12日の九州北部豪雨で中津・日田・竹田の三市が甚大な被害を受け、その際に御見舞金や義援金をいただき、市P連だけでなく被害を受けた各単Pも救われました。市P連を代表して厚くお礼申し上げます。

昨年7月12日の九州北部豪雨で中津・日田・竹田の三市が甚大な被害を受け、その際に御見舞金や義援金をいただき、市P連だけでなく被害を受けた各単Pも救われました。市P連を代表して厚くお礼申し上げます。

多彩な活動を支える 会員の努力

広報紙「笑和」の年2回発行や7月の球技大会、12月のクリスマスキャロル、2月の市P連研修会など数多くの行事を実施する為に各専門部が何度も部会で内容を検討し、時には先頭に立ち、時には陰で支える姿を見て頼もしく感じています。

各専門部の活動について報告・連絡・相談をしてもらい、風通しの良い組織を目指して全員が一丸となって頑張っています。



PTA研修会の様子

竹田市PTA連合会
会長 佐藤 龍太

反抗期 どう接したらいいの? ②

いたづらな「ふきのとう」

香気とほろ苦い味が喜ばれ、ひたし物や和え物などの調理で賞味される食材、「ふきのとう」。自分の出番をうかがい続け、早春、一気に土を割って出る。葉に先立って、山間の小さな集落で農業を営む両親と姉の四大家族。翔くんは、小学5年生。四季の変化が翔くんの心をそっとなで付けるたびに、それを受け入れ、心を膨らませてきた。吹きつける風、泥田の感触、野草の味、せせらぎの音……「ふきのとう」の採集もそのひとつ。翔くんの楽しみ。昨年、作成した「ふきのとう採集マップ」を頼りに、今年も、採集活動開始。揚げ物にして、楽しむ家族の顔が浮かぶ。しかし、この時は、見つからなかつた。数日後、マップの目印のあたりを通りかかった時、思いもよらぬ光景。そこには、ふきの葉が誇らしげに育っていた。近づいて、根元をさがしたが見つからない。ふきのとうは、消えていたのだ。翔くんは、しばらく泣きじゃくって、顔を上げられなかつたらしい。今年、天候不順。いたづらをしたわけではないだろうが、心がぼんやりと翔くんの気持ちはよくわかる。自然は生きもの。こんなこともあるのかな。ままたらぬことがこれからいくつもあつて、涙で心を膨らませ、頑張れ！みんなで考えるコーナー！室長 岩尾 淳一

1面コラム欄は昨年度より引き続き「研北寸心」です
筆者紹介



一九三七年 国東市武蔵町生
一九六〇年 大分大学文学部卒
一九九八年 大分市立南大分小学校校長を最後に退職

【履歴】
大分県書写書道教育研究協議会会長
第60回大分合同新聞文化賞受賞
【現在】
泰濤書道館主宰
大分合同新聞文化教室講師
NPO法人大分県書写書道指導者連合会顧問・理事
大分県美術協会名誉会員
財団法人書道芸術院評議員・九州支局長

佐伯ドリームプロジェクト 夢と希望を抱ける楽しい学校へ

佐伯市PTA連合会

佐伯ドリームプロジェクト
佐伯市PTA連合会は、昨年度11月より、佐伯ドリームプロジェクトを立ち上げました。佐伯市教育委員会・佐伯教育事務所・校長会・佐伯市PTA連合会で佐伯市の当面する教育の問題について話し合います。そして、子どもたちにとって、学校が「夢と希望を抱ける楽しい場所」になる事をめざし、保護者と教師と行政がともに考え行動しようというものです。

昨年の8月より、市P連と教育委員会で「いじめ問題」等について定期的に話し合いを重ね、教育事務所と校長会にも参加してもらうようになり、10月に開かれた臨時常任委員会には、市教委・教育事務所・校長会各代表が参加し、PTA会長と佐伯市の実態と具体的な取り組み等について話し合いました。

具体的な取り組みで 問題解決へ

最初の活動として、まずすべての学校でPTA会長（役員）と、校長がいじめの問題について話し合いました。どの学校でもいじめの実態や対策等について、話し合われ、学校とPTAが協力した取り組みが具体的に進んだ学校もあります。

次に、「いじめ撲滅に向けたアピール文」を全児童・生徒、保護者に配布し、各学校で指導や、「いじめ問題」を考慮する授業に活用してもらいました。学級の保護者会でも取り上げられ、いじめからどうやって我が子を守るかといった話し合いをした学校もあり



夫婦岩で有名な 豊後二見ヶ浦



佐伯市の名所 国木田独歩館

佐伯市PTA連合会
会長 正田 啓一

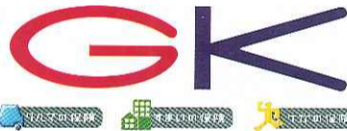
佐伯市PTA連合会
会長 正田 啓一

はぐく美
保険サービスは
PTA活動と
会員の安心・安全を
サポートします!

平成25年度
特別加入
受付中!

まずはお電話で!

三井住友海上の安心



〒104-8252 東京都中央区新川12-27-2
www.ms-ins.com

はぐく美保険サービス株式会社

大分市下郡496-38 大分県教育会館2F

フリーダイヤル (コール ハグクミ)

0120-568993

※平成25年度募集の結果、育英・自転車補償制度加入者が10,000名に満たなかったため、団体割引が25%の適用になりました。保険金額の詳細は、保存版4ページをご覧ください。(加入者数は平成25年3月31日現在)

《保険の種類》

- ・育英補償(子ども総合保険)
- ・自転車補償(自転車総合保険)

～保険期間～

平成25年7月1日から
平成26年4月1日まで

編集後記

☆今年度の「はぐく美」編集スタッフが紹介します。
丸山真里 加来史
金子育代(新) 近藤薫(新)
友永美和(新)
《顧問》岩尾淳一
今年度も、皆様に親しんで頂ける紙面作りをいたします。どうぞご愛読ください。
▼時は流れる。周りの景色も一年前とは変わっている。でも経験や思い出は積み重なっている。先輩方の教えを心に、新しいメンバーで頑張ります。
▼初めての紙面担当。右も左も分からず、まわりの皆様に



県P情報

- ▼6月6日(木) 第65回定期総会
- ▼6月21日(金) 幹部研修会
- ▼8月3日(土) 第7回全単位PTA会長研修会

助けられ、なんとか完成。いつまでもチャレンジする気持ちを持ち続けたい、人生半ば。▼初夏の風に乗って、学校から音楽が聞こえてきた。運動会の練習。春の運動会は新学期の浮ついたクラスを団結させる特効薬らしい。がんばれ。▼中学校入学と同時に一日の流れが変わった。過ぎたるは及ばざるが如し。子どもとの距離感を心がけての日々。自立に向けての三年間、目と心は離さずに見守っていた。▼この春、進学・進級した子どもたち。新たな地での奮闘ぶりに不安と期待を抱きながら、親子で成長できることを願う、今日このごろ。